

徳之島報 とくノシマ

2009
3月号
419

編集・発行 徳之島町役場 企画課 〒891 7192鹿児島県大島郡徳之島町亀津7203
TEL (0997) 82 1111(代) FAX (0997) 82 1101
ホームページアドレス <http://www.tokunoshima-town.org/>

自衛隊ヘリコプター殉職者慰霊碑完成

山公民館広場 慰霊碑から
天城岳連山山頂を望む



今月の一言 (井之川のテーキ話より)

くわな
子産ち

うやくとおも
親の事思い

「自分が子を持ち親になってみて、改めて親の事を考えてみよ」という意味。親を大事にということと、その立場になって物事を考えることの大事さを言ったテーキ

今月の主な内容

平成21年度施政方針	P 2 ~ P 4
お知らせコーナー	P 5
まちの話題	P 6 ~ P 7
教育委員会だより	P 8
徳之島の昆虫シリーズ 最終回	P 9
徳之島の偉人紹介・戸籍の窓	P 10

平成21年度施政方針



高岡 秀規町長

平成21年第1回定例議会の開会にあたり、予算(案)を提出し、平成21年度の町政に關します施政方針を申し上げ、町議会並びに町民各位のご理解とご協力を仰ぎたいと思ひます。

新年度を迎えるにあたり、まず昨年よりの町制施行50周年に伴う数々の記念行事が予定計画どおりに、また盛會に終えることができましたことに、町議会議員の皆様ならびに町民・出身者の皆様へ心から御礼を申し上げます。

この50周年の佳節に町民の皆様・出身者の皆様の郷土を想う篤い心と潜在能力の凄さ・地域力の高さを改めて実感し、次の50年へ力強いスタートができたものと確信いたしました。

さて、世界は今、アメリカのサブプライムローン・リーマンブラザーズの経営破綻に端を發した、100

年に一度といわれる金融危機に見舞われています。わが国においても、この経済危機を乗り越えるためあらゆる支援措置がとられておりますが、事態の推移はまったく予断を許さず、先行きの見えない状態であり

ます。時を同じくして奄振法が20年度で期限切れとなり、その延長要望に伴う次期奄振計画(案)も提出されており、厳しい状況の中ではありますが、グローバルな視野で動向を見据えながら心して経済基盤の強化に取り組んで行きたいと決意いたしております。

次期奄振計画には農業・観光・情報の3分野を軸に計画案を提案いたしました。主なものは農業分野においては、アリモドキゾウムシ防除根絶事業・徳之島子牛セリ市場建設事業、観光分野は全天候型多目的闘牛ドーム施設整備事業・観光交流施設整備事業・ニューツーリズム推進事業、情報分野は情報通信ネットワーク基盤整備事業などです。

それでは、平成21年度予算(案)の概要をご説明申し上げます。

地方公共団体の破綻を未然に防ぐために制定されました「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に

より、本町の財政状況の健全化判断比率は早期健全化基準団体には該当せず健全な財政で運営しています。今後とも公共下水道事業や国民健康保険事業等の特別会計等への繰出金の抑制や公共事業の適正化によって、引き続き財政状況の健全化に努めてまいります。

21年度予算案は、税収については景気低迷等により前年度よりマイナスイ算であります。その反面、国からの地方交付税は増額であります。世界的不況等により来年度以降の交付税については予想できない部分があり、引き続き厳しい財政運営が続くことが予想されます。

特に町税の確保に向けては、20年度より収納対策課を新設し、徴収体制の強化や滞納処分を実施してまいりましたが、依然として徴収率は低い水準で推移しております。今後とも現年度分の徴収率の向上に努力します。歳出面では、メリハリのある予算配分を行い職員人件費、公債費の削減や補助金の抑制を行いました。その一方農業費、都市計画費では増額配分を行いました。

平成21年度一般会計においては、予算総額が前年度対比0.5%減の約55億9千万円の予算となりました。数回にわたる予算の見直しを行い、補助金、単独事業の見直し、特別会計への繰出金の抑制に努めましたが、依然と義務的経費の占める割

合は高く、本年度も基金からの繰入れを行いました。基本政策に基づいて予算編成をいたしましたのでご理解賜りたいと思ひます。

さて、わが国の農業を取り巻く環境は日々変化し、昨年来食品の偽装表示、輸入食品の農薬汚染問題等で食の安全・安心も大きく揺らいできました。食の安全に対する消費者の関心の高まりと、食料の輸入困難な状況の中で国産原材料の安定供給体制の確立が急務となっております。

本町の農業振興につきましては、亜熱帯の温暖な気候のもとに生産される農作物は、もともと減農薬栽培でヘルシーであります。なお一層減農薬の特別栽培や有機栽培を目指して、消費者に安全な農作物を提供して安心を与えて行くよう努めていかなければなりません。

徳之島ダムが平成24年度に完成し順次灌漑が実施されますことを見越して、付加価値の高い農産物の生産を模索したり、また日本の食糧基地を目指すという事において、奄振事業の農業分野の補助率がさ上げを求めて行くべきだと思ひます。

基幹産業のさとうきびは20・21年期25万9千トンを見込み、ここ数年気象条件にも恵まれ豊作であります。さとうきびが豊作であるということ、大きな経済効果が期待できます。

平成20年度は、さとうきび産地活

性化実践事業並びに推進事業などを
実施し、収穫・管理作業機械を導入
することで、より効率的な作業で反
収の向上が図られました。21年度も
同事業を継続実施し、さとうきびの
増産を図っていきます。

今、世界貿易機関WTOにおきま
して貿易の自由化が進められてお
り、砂糖の自由化が検討されていま
す。さとうきびは、島に人が暮らせ
るようにする国土保全の観点からも
政策支援に切り替えて行くべきこと
を強く訴えて行く決意であります。

畜産につきましては、世界的同時
不況で子牛の価格も低迷するなか、
収益を上げる為、地元でのTMR飼
料の開発や品質の向上に努めていか
なければなりません。また、平成21
年度も引き続き牛舎建設事業を実施
し飼養頭数の増頭を図っていきま
す。

ばれいしよにつきましては、春一
番が県農業・農村振興協会より安
全・安心の農産物の認証を受けまし
た。このことは、ばれいしよ農家に
大きな自信と市場並びに消費者には
信頼と信用を与えたものと思いま
す。これを機に引き続きかこしまプ
ランドの認証を目指し努力してまい
ります。また、21年度は、JA徳之
島ばれいしよ選果機設置事業により
選果機の更新を行い、処理能力の向
上と品質の安定化を図り市場評価の
向上に努めてまいります。

園芸振興におきましては、奄美農
業創出支援事業を導入し、営農ハウ
スを整備し生産拡大に努めてまいり
ました。21年度も同事業を継続し、
ばれいしよ収穫機購入助成、営農ハ
ウス整備事業を実施していきます。
ハウスにおいては、マンゴー栽培を
行い産地化を目指していきます。

平成20年度は、農山漁村活性化プ
ロジェクト支援交付金と農山漁村地
域力発掘モデル事業を導入し、同事
業をリンクさせ、農産物の地産地消
を目指し直売所の開設をいたしまし
た。農産物加工センターの老朽化し
た機械・器具の更新も行い、加工品
開発におきましては、鹿児島大学に
委託して進めているところでありま
す。

また独自でも郷土料理研究、並び
に徳之島スイートの開発等も含め21
年度中に手がけていきたいと考えて
います。同事業とも5年間の継続事
業でありますので、引き続き事業を
実施し、農産物産出額の増加を図
り、第一次産業の農業の振興で本町
の活性化、地域おこしに取組んでい
く所存であります。

福祉につきましては、20年度は流
行語にもなりました「メタボ」メタ
ボリックシンドローム(内蔵脂肪症
候群)対策の為、特定健康診査・特
定保健指導事業を実施しました。そ
の結果受診者の2割が生活習慣病予
備群、しかし、肥満者は45%と2人

に1人がメタボ対象者でした。この
うち20年度に20名の方に積極的支援
を実施した結果、腹囲・体重の減
少、運動習慣の改善が見られ、今後
も検診の受診と保健指導の必要性を
住民の皆様へ周知徹底し医療費の抑
制に努めます。

また21年度は病児保育、ファミリ
ーサポートセンター等の事業も実施
して行きます。病児保育とは、保護
者が就労などの理由で保育ができ
ず、子供が病気になった際に保育
を行うもので、ファミリーサポート
センターとは、子供を預ける側・預
かる側がともにセンターの会員とな
り、会員同志で有償で子供を預ける
センターのことです。景気悪化で共
働きの家庭が増え、その中で子育て
をして行くのは大変な苦勞がありま
す。その子育て支援に大いに役立つ
ものと期待をしております。

この度の厚生労働省の調査で、合
計特殊出生比率の全国第1位から3
位までに徳之島3町が入りました。
第1位が伊仙町、第2位が天城町、
第3位が徳之島町です。全国で17
81ある市町村のうちでトップ3に
なったわけです。合計特殊出生率と
は1人の女性が一生に産する子供
の数のことですが、名実ともに日本
一の子宝島になったのであります。
その子育てを行政があらゆる方法で
支援して行くための努力をして行き
たいと思います。

次に、21年度から家電リサイクル
促進事業が導入されます。家電4品
目(テレビ、エアコン、冷蔵庫・冷
凍庫、洗濯機)の廃棄物を指定引き
取り場所まで輸送する海上輸送費の
一部を助成するという事業です。消
費者の負担軽減を図り、また不法投
棄をなくす為にも特に離島には必要
不可欠な事業だと思えます。

行財政改革の一環として、平成18
年度から導入してまいりました指定
管理者制度は町文化会館・町体育セ
ンター・町立図書館・マリンパーク
開田(し尿処理施設)に続いて、平
成21年度には健康の森総合運動公
園・亀津公園の運営が指定管理者制
度により民間委託されます。可能な
限り行政のスリム化を図り、運営を
民間でできる部分は民間でやっても
らうという方向で行財政改革を進め
ていきます。

教育分野におきましては、本町児
童生徒の学力低下が指摘される中、
その向上対策として家庭学習の充実
を図ることが重要課題であり、「家
庭学習60・90運動」も推進されてい
るところではあります。思うよう
に成果が上がっていないのが現状で
す。この打開策として、本町の伝統
的教育風土でもある家庭や地域での
学習支援を行う為に、平成のヤンキ
チシキバンともいうべき「学土村
塾」の開設を行います。地区公民館
を活用し、教員OBや有識者の方々

を有償で協力してもらい、児童生徒の学力水準の向上を目指すものです。「うすい粥をすすってでも、わが子には教育を受けさせる」というヤンキチシキバンの教育風土の中で、明治から昭和初期にかけて多くの逸材を輩出したという学土村の教育理念・歴史を決して風化させてはならず、しっかりと私達や子供たちへもその良き精神風土・心の財産は受け継がせなくてはなりません。

2001年9月、世界の歴史を大きく変えた同時多発テロ、その3年後にアフガニスタンの大統領に就任したカルザイ大統領がこう語っています「1年先の事を考えるなら米を作れ、10年先の事を考えるなら木を植えよ、100年先の事を考えるなら人を育てよ」と、まさに町の将来は紛れもなくこの子供たちが担って行くわけでありませぬ。したがって、教育は後継の人材育成であり、将来を見据え地域一体となった取り組みが必要だと思えます。

次に北部振興についてであります。21年度に本町の北部地域（山・金見・手々）にブロードバンドを整備し、地域経済の活性化を図る為に、奄美群島ブロードバンド基盤整備事業を導入いたします。

この事業により、北部地域の地理的不利性を克服し、ICT（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）を活用し

た各種サービスの提供が可能となり、地域住民の利便性の向上、若者の起業など、このような対策等を含め地域活性化につなげて行きたいと思えます。

月日のたつのは早いもので、自衛隊機墜落事故から2年の歳月が流れました。来る3月27日は3回忌の慰霊祭を挙行いたします。今回は事故現場の山頂に完成した鎮魂碑と、そこから見下ろす山公民館広場の慰霊碑の除幕式を兼ねた慰霊祭です。関係者のご協力をよろしくお願い致します。

近年、奄美の世界自然遺産登録に向けての声が高まっており、自然との共生が益々クローズアップされています。わが町でも登録へ向けての取り組みの一つとして、一昨年より毎月第3日曜日をボランティア清掃の日と位置づけ、地域清掃を実施しています。世界自然遺産登録を目指す中で、この豊かな自然を守り受け継ぎ、損なわれた部分をいかに再生し、自然との共生を私達の立場からどのように具体的行動としていけばいいのかを問い直す絶好のチャンスではないかと考えます。そして、ある程度のリスクは伴うことでしょうが、それにもまして極めて多くの固有種が生息する豊かな自然環境を保護して行くことは、大きなメリットがあるものと思えます。

この豊かな自然、亜熱帯の温暖な

気候、ヘルシーな地元食材を使った郷土料理は、19年度から実施しているスポーツ合宿誘致で来島する選手たちにも喜ばれ、年々合宿団体数・合宿者数も増えております。今後も官民一体となってPR活動・誘致活動を積極的に推進する計画です。

さて、住民参加型の地方自治を実現し、個性あるまちづくりに資することを目的として、平成20年3月の町定例議会にて「徳之島町ふるさと思いやり基金条例」を制定し、同年4月1日より施行いたしました。平成20年度は、町制施行50周年とも重なり、その記念事業のための寄附金も募った為、島外在住の郷土出身者に多大な負担をかけてはいけないうの思いから、積極的PRはあえて行いませんでした。従いまして、50周年記念事業も終了しまして、21年度からは「ふるさと納税」のPR活動に本格的に取り組んでまいります。

この制度は、県外に住む方々が町に寄附をすることによって、その寄附金額により住民税・所得税の軽減を受けられ、また寄付者の方々は、町が提示した政策メニューの中から選択して、その政策へ寄附ができるというものです。政策メニューは、特産品の研究開発、高齢者・障害者の健康福祉、島の環境保全、伝統文化の保存・継承、子供たちの教育・読書活動、観光及び定住促進の各事業となっております。これらの事業を

寄附を通じて実現して行くことにより、住民参加型の地方自治と個性あるまちづくりに取り組んでまいります。

先行き不透明な厳しい時代ではあります。この時こそ町民の皆様と心をつなげて、「南の島のすこやかまちづくり」のスローガンのもと「健康で明るく住みよいまちづくり」を目指していくことを申し上げ、平成21年度の基本方針とし、町民の皆様並びに町議会議員の皆様のご理解とご協力を心からお願ひ申し上げます。平成21年度の施政方針といたし



2月20日に山頂で行われた竣工式

お知らせ コーナー

「平成21年全国戦没者追悼式」参列遺族の募集

全国戦没者追悼式に参列を希望される遺族の方を募集します。

日時 平成21年8月15日(土)
ところ

日本武道館
対象者

・戦没者の配偶者並びに三親等内の遺族(過去参列していない方を優先する)
・一般戦没者の配偶者並びに三親等内の遺族(過去参列していない方を優先する)

申込期限
平成21年5月29日(金)
申込先

徳之島町役場 住民生活課

問合せ先

鹿児島県社会福祉課

☎ 099 286 2830

徳之島町役場住民生活課

☎ 82 1111

(内線121・122)

平成21年度

保育士試験のご案内

試験日程

筆記試験 平成21年8月8日

(土)・9日(日)

実技試験 平成21年10月11日

(日)

平成21年保育士試験受験の手引き(受験申請書)請求方法

返信用封筒(角型2号、A4判、255×305大)に140円切手を貼り、あなたの郵便番号・住所・氏名を明記してください。

センター宛封筒に入れ、「手引き請求」と朱書きし、保育士試験事務センターに郵送してください。

法務局からのお知らせ

商業・法人登記事務の取扱庁の変更について

鹿児島地方法務局

これまで、大島郡徳之島町・天城町・伊仙町の商業・法人登記事務については、鹿児島地方法務局徳之島出張所で取り扱ってきましたが、平成21年7月21日(火)から、鹿児島地方法務局法人登記部門において取り扱うこととなります。

商業・法人登記申請は、鹿児島地方法務局法人登記部門窓口にて申請書を提出いただく方法、郵送で送付いただく方法、オンラインにより申請いただく方法があります。

商業・法人登記に係る登記事項証明書、印鑑証明書の交付事務につきましては、引き続き徳之島出張所でも取り扱います(動産・債権譲渡登記に係る概要記録事項証明書の交付事務を含む。)

商業・法人登記に係る登記事項要約書の発行事務、印鑑カードの交付事務、印鑑カードの廃止事務及び印鑑(改印)届・印鑑廃止届は、鹿児島地方法務局法人登記部門で取り扱いますので御留意願います。

詳しいことは、下記の法務局にお問い合わせください。

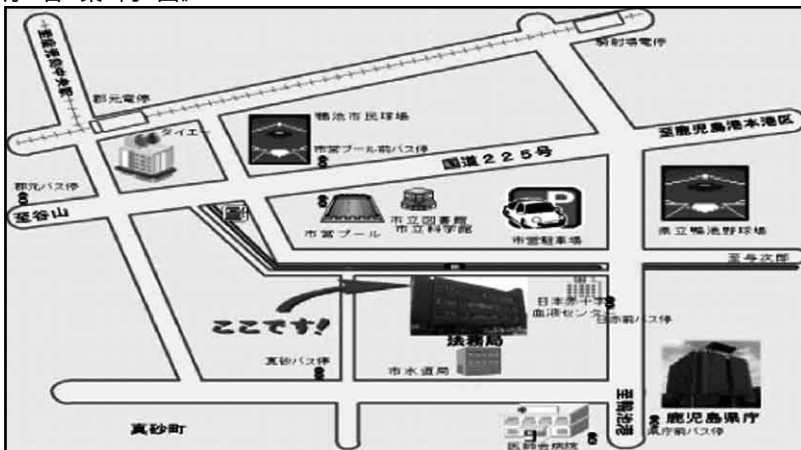
鹿児島地方法務局

〒890-8518 鹿児島市鴨池新町1番2号
099-259-0680

鹿児島地方法務局徳之島出張所

〒891-7101 大島郡徳之島町亀津553番地1(徳之島合同庁舎)
0997-82-0206

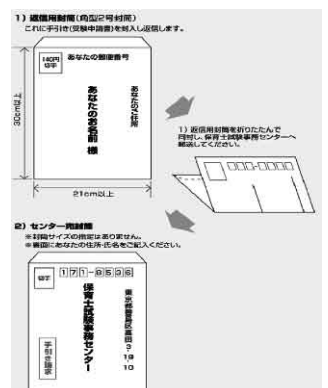
庁舎案内図》



鹿児島地方法務局

(2部以上を請求する場合は必ず希望部数分の返信用封筒を同封してください。)
平成21年4月1日(水)請求・配布開始
受験申請書受付期間
平成21年4月1日(水)から平成21年5月13日(水)まで
保育士試験に関する照会先

〒171 8536 東京都豊島区高田3 19 10
社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験事務センター
<http://www.hoyokyo.or.jp/>
☎ 0142 4194 82
(祝日を除く月曜日～金曜日 午前10時～午後6時)
Mail: shiken@hoyokyo.or.jp





亀津ファイターズが優勝

2月14日・15日に、町健康の森運動公園野球場で「平成20年度南三島卒業記念学童軟式野球大会」が行われました。

卒業を控えた小学6年生にとって、最後の大会となった今大会には、和泊のチームを含む12チームが参加。優勝旗目指して両日ともに熱戦が展開されました。

Aブロックでは、チーム全員が6年生の亀津ファイターズが、決勝で面縄レッドソックスを5対2で下し優勝しました。また、Bブロックでも亀津ファイターズが優勝するなど、ダブルの喜びに沸いていました。



優勝旗を手に笑顔の亀津ファイターズ

上武大学オープン戦

2月17日から26日まで、群馬県の上武大学硬式野球部（谷口英規監督・90名）一行が、今年で3年目となる合宿に訪れ、健康の森野球場をメインに合宿を行いました。

17日の激励会に続き、18日には、同公園野球場において、社会人野球の強豪チーム日立製作所野球部とのオープン戦が行われました。

社会人野球と強豪大学野球部の試合とあつて、島内各地から野球ファンが詰めかけ熱い視線を送っていました。試合結果は1対0で社会人野球の日立製作所野球部が勝利し、社会人野球の意地を見せました。

上武大学の今後のご活躍をお祈りいたします。



手に汗握る攻防戦

徳之島の味に舌鼓

2月19日、農協会館において町制施行50周年記念「徳之島をひたすら食する夕べ」が開催されました。

この会は、「徳之島の特産品であるバレイシヨやタンカン、黒糖焼酎を多くの人に広め、PRの場とする」ことを趣旨で行われたもので、上武大学学生や自衛隊、県関係者約200人が参加しました。

テーブルにはバレイシヨを使ったコロッケや牛肉、鶏飯、タンカン等が並び、徳之島に関するクイズや焼酎の利き酒コンテストなど、趣向を凝らしたイベントで、舌でも頭でも徳之島について深く考える機会となりました。



徳之島の味をおいしくいただきました

健康教育推進学校奨励校

3月3日、「2008年度健康教育推進校表彰」（財団法人日本学校保健会）の伝達式が、役場町長室で行われました。

健康教育推進学校表彰は、学校における健康課題についての活動状況や健康教育の推進体制などの取り組みに対して贈られるもので、「21世紀・新しい時代の健康教育推進学校奨励校」に亀徳小学校（加治屋浩一郎校長・114人）が見事輝きました。県下で1校、全国でも8校という大変名誉ある賞です。

加治屋校長は「学校・家庭・地域を挙げた長年の積み重ねのおかげ」と喜びを語っていました。



賞状と記念の盾を手にする関係者ら



赤羽選手のピストルの合図でスタート

3月1日、第6回「健康の森総合運動公園ウォーキング」（町教育委員会主催）が、徳和瀬の同公園で仲間や家族連れなど約100人が参加して行われました。

午前10時からの開会式では、参加者全員でレクダンスで体を温めた後、徳之島で自主トレを行っている北京オリンピック代表で、ママさんランナーのホクレン女子陸上部赤羽有紀子選手のピストルの合図で、約5・2キロのコースに出発しました。

ウォーキングの参加者たちは、各自のペースで、公園内の自然を楽しみながらさわやかな汗を流していました。

さわやかな汗を流す



一人ひとりへ卒業証書を授与

さわやかな春の陽気となった3月12日、町内の各中学校において一斉に卒業式が行われました。今年度は、町内6中学校130名が卒業を迎え、小学校6年、中学校3年の義務教育を終え、高校をはじめとした進路へと、その一歩を踏み出しました。

亀津中学校の卒業式では、在校生と保護者の温かい拍手の中、生徒が一人ずつゆつくりとした足取りで入場。式では、今給黎校長先生から卒業生84名一人ひとりへ卒業証書が手渡されました。

最後は、卒業生全員で「旅立ちの日に」を合唱し、3年間慣れ親しんだ学び舎を後にしました。

さらば学び舎



約60人が出席しました

3月8日、役場会議室において、「松山光秀氏の郷土研究から学ぶ」をテーマに、徳之島郷土研究会が行われました。

故・松山光秀氏は、日本民俗学会会員、徳之島郷土研究会会長、町文化財保護審議会会長などを歴任し、徳之島の民俗文化研究に多大なる功績を残されました。

会では、松山氏と交流のあった研究者も全国各地から駆けつけ、松山氏の功績を偲び、松山氏が「伝承の記憶装置」と位置付けた島唄の発表や、研究をいかに引き継いでいくかについて語り合われました。

研究をいかに引き継ぐか

一生懸命頑張っていました



就業体験を通して

僕は、徳之島町役場の企画課で就業体験をした上村昌也です。僕たち樟南二高1年生は、3月2日から6日まで島内各地で就業体験をしました。

今回、広報係の仕事の一環で、就業体験をしている人を取材にAコープへ行きました。Aコープでは2人の生徒が商品並べの仕事をしていて、話を聞いてみると、「大変なこともあるけど、楽しいこともたくさんある」ということでした。

この話は僕も共感しました。パソコンでの作業や離島カード作成などの役場の仕事を体験して働くことの楽しさや厳しさを学びました。また、職場の人々もとても親切で、楽しい雰囲気でも過ごすことができました。この貴重な就業体験を生かしこれからの高校生活や将来の仕事に役立てていきたいと思ひます。



教育委員会だより



平成21年度 徳之島町「学士村塾」に参加してみませんか

【実施の趣旨】

かつて、私たちの徳之島町には、亀津の「学士村」を中心に、東京大学をはじめとする旧帝国大学出身者を多く輩出した「ヤンキチシキバン」の教育、子育ての教育風土があり、親の教育熱や子供の学問に対する探求心は極めて旺盛でした。

当時から1世紀を経た現在、徳之島町の子供たちの学力は、学校・家庭・地域の連携の中で様々な取組がなされているものの、まだまだ学力向上の可能性を秘めながらも十分な学力が定着しているとはいえない状況にあります。

このことから、子どもたちの自学自習の習慣をさらに定着させ、学力向上を図る一つの機会としてこの学士村塾を以下の要領で平成21年度から設置したいと考えました。

学校週5日制の土曜日の有意義な過ごし方や異年齢集団での助け合い学習、家庭や地域の教育熱の再興といった面からも、塾開設は有意義な活動につながると考えています。

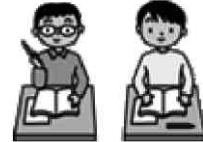
【実施期間】 平成21年5月9日(土)～平成22年3月13日(土)

(但し、夏季・冬季・春季の長期休業日は実施しない。)

【参加対象】 町内小、中学校 児童生徒

【実施日程・内容】

- * 実施期日・時間・・・毎週土曜日830～1130(3時間)を原則とする。
- * 学習形態・・・基本的には自学自習の場とする。
- * 指導者・・・運営・管理は各校区在住の教職員OBや有識者等に委嘱する。
- * 経費等・・・児童生徒からは徴収しない。



【実施場所等】

教室名	実施場所(予定)	対象校
亀津	中区公民館	尾母小中・亀津小・亀津中学校
亀徳	亀徳地区振興センター	亀徳小学校・亀津中学校
神嶺	井之川公民館	神之嶺小学校・井之川中学校
東母花	大当生活館	母間小・花徳小・東天城中学校
山手	山公民館	山小・山中・手々小中学校

* 各会場の使用に当たっては指導者の管理のもとで行い、準備・清掃等は塾生で行う。また、地区民の使用について支障が出ないように配慮する。

【募集方法(内容)、その他】

- * 申込みの受付については、各学校から配布される申込用紙をお願いします。
- * 募集案内は、各学校便りでもお知らせいたします。
- * 募集期間は、平成21年4月6日(月)～平成21年4月17日(金)です。
- * 自習時、通塾時、送迎等における事故等については、各御家庭で管理をお願いいたします。学士村塾や教育委員会で責任は負いかねますので、御了承ください。

生徒を支えるPTA活動

徳之島町立亀津中学校

亀津中学校は、現在創立61周年を迎え、269名の生徒が在籍しています。本中学校区は、亀津小学校区と亀徳小学校区からなり、漁業や農業、商業、工業、飲食業などの多種多様な環境に囲まれています。様々な出会いの中から生徒一人一人が自分の夢を見出していけるよう地域・保護者の皆様とともに教育活動に取り組んでいます。今回はPTA活動の特集します。

1 今年も完成!大きな緑門

平成20年度の第61回体育大会の開催を記念して、今年も大きな緑門が登場しました。PTAおやじ会が力を合わせ、3日間かけて作成しました。体育大会の成功を記念するとともに、大きな緑門の下にたくさんの人が集うことを願いながら作成しました。



2 いつも笑顔で明るいあいさつ

明るいあいさつ、みんなが主役の生徒会を目指す生徒たち。保護者の皆さんも負けてはいけません。各家庭で元気なあいさつ。そして、本年度3回実施した生活指導部による朝のあいさつ運動。明るく元気なあいさつが1日のスタートです。



3 親子で汗かき活動

亀津中学校の校庭や校舎、教室は大切な学びの場です。本年度は7月と9月保護者とともに奉仕活動を行いました。PTA環境整備部の号令の下、汗をいっぱいかきながら環境と心の美化に努めました。扇風機につもったほこりもきれいになりました。歴史ある学舎です。これからも大切に使っていきます。



小学校教諭 大坪博文

【自然に生きる昆虫から得られるもの

それは、自然の謎解きへの挑戦（知的好奇心）！】

40万年前のネアンデルタール人は、食うために虫を捕っていた。日常は木の実、草の根、それに虫であろう。現在でも30cmもあるナナフシを焼いてポリポリかじったり、幹に潜むカブトムシの幼虫を最上の御馳走にしたりしている人もいる。東南アジアでもタガメ、コオロギ、セミなどを油で炒め、賞味している。日本ではイナゴ、ハチノコ、カイコの蛹などを醤油と砂糖で佃煮にして食べていた頃があった。今でも食する人がいる。食べる以外の目的で人が虫を捕るようになったのは、農業をはじめてからであろう。作物を守るために、つまり害虫防除である。今では、研究のため、何も研究しなくても、美しいから、珍しいからという理由で、虫を捕り、標本にすることを「昆虫採集」と言っている。

昆虫の最大の特徴は、圧倒的に種類数が多いことだ。世界の動物は100万種とも言われ、このうち昆虫は80万種になる。調査が進めば300万種に達すると言われている。

現在の地球は昆虫天下で人も虫には負けている。一番強いものが最も住み心地の良い場所に居を構えるとすれば、地球の一等地は、暖かくて食べ物が豊富な熱帯地方だが、人はそこを避けて温暖なや高緯度地方に住んで文明を築いてきた。熱帯は、昆虫によって多くの病気が伝染され、害虫によって農業がやりにくく、家はシロアリで倒れ、人にはとても住みにくいというわけだ。現在は科学技術の進歩で様変わりし、昆虫たちも大ピンチだが、人も自分たちがやっている環境破壊に自分たちで困ってしまった。

話は変わります。さて、鹿児島県の生物は何種類いるか。これがまた大変な仕事で確かなことは分らない。調べて見ると、野生のシダ植物420種、種子植物2429種、哺乳類36種、鳥類320種、爬虫類38種、両生類27種、魚は鹿児島湾に限れば315種である。県内産昆虫類で種類数がはっきりしているのは、チョウ150種、トンボ119種、セミ14種、クワガタムシ22種、カミキリムシ340種、ホタル21種、アリ100種など、ごく限られたグループに過ぎない。甲虫類だけでも約3500種と推定されている。鹿児島県の昆虫の種類は全国的に見ても多い。それは、県本土から与論島までの長い地形から、分布を北限や南限にしている昆虫が極めて多く、変化に富む昆虫を見ることができるからだ。

もともと昆虫の見逃せない特徴は体が小さいことだ。鹿児島県で最も体長の小さな昆虫は、昆虫の卵に寄生するウンカタマゴバチで0.5mm、世界最小はアザミウマタマゴバチで0.18mmである。そんな塵のような虫は我々には何も関係ないようだが、害虫をコントロールする（滅ぼす）ということからみても重要で、生態系の見逃せないメンバーの一員なのである。

人は昆虫を自分たちにすぐ役立つ虫（益虫）、有害な虫（害虫）、ただの虫（？）に分けてしまい、ほどほどに付き合っている虫が大部分である。温暖化が進み、地球生態系の危機が問題になってきた今日だからこそ、身近な自然を知る（探してみる）ことは大事なことです。

虫を探するという行為は、誰しもが体験したことがあると思う。虫は自然の中で人よりはるか昔から生存し、分化しながら今も生き続けて、凶鑑にはものすごい数の虫が紹介されている。虫はどこでも居そうで見つかりそうだが、いざ真剣に探してみてもなかなか思い通りにはいかない。どこにいるのか、どんな生活をしているのか、何を食べているのか、いつ活動するのかなどと、調べれば調べるほど必然的に自然についての幅広い知識が身に付く。というか、出会いたいならば、そうならざるを得ない。そこに新たな発見や疑問が生まれ、再び書籍をあたり、それを自然の中で検証するといった具合に知的好奇心が増していく。また、虫にふれると、自然保護や環境保全の必要性、重要性を真に理解することになる。つまり、虫探しは自然を知るための最適な窓口なのだ。虫が我々人間に教えてくれることは想像以上に多く、なおかつ深いといえる。最後に、岡田朝雄氏（東洋大学名誉教授）の素晴らしい一説を紹介する。

『昆虫採集は、学問、芸術、スポーツ、娯楽の要素をすべて兼ね備えた素晴らしい趣味である。しかも幼年から老年まで誰でも楽しむことができる。《中略》そして、この趣味のもっとユニークで素晴らしいところは、知的好奇心を満足させてくれ、自然とはどんなに素晴らしく、どんなに大切なものであるかということを見せてくれ、知らず知らずのうちにさまざまな学問への興味を目覚めさせてくれることである』

皆さんも、徳之島の虫とふれあい、自然の謎解きに挑戦し、知的好奇心を満足させませんか。

徳之島の偉人紹介

～その8～



いぬい じゅんの すけ

乾 純之助 (1901年花徳生まれ。1987年没)

農業功労者。大和製糖、天川酒造社長。戦後、製糖に一大革新をもたらした砂糖きびの新品種「NCO310号記念碑」が徳之島町花徳にあり、その功労者として乾純之助の名が刻まれている。この記念碑は、元大和製糖従業員、花徳区民、青年団などが建てた。農業功労者の顕彰碑は珍しい。

砂糖生産を大幅に向上させた新品種は、1944年、インドで交配されアフリカのナタールで育成されたため地名をとって命名された。琉球政府がこれを取り寄せ、57年11月に奨励品種となった。

37年から八重山の製糖工場で働いていたが、奄美の日本復帰後徳之島に帰り、天川酒造と大和製糖を設立していた。NCOの苗を57年に沖縄の農事試験場から分けてもらい花徳に移植した。1町2反歩の原苗圃をつくり、3年かけて栽培、苗を農民に無償配布した。

NCO310号のきびは、在来のきびに比べて糖度、反収が高く病害にも強いいため、このきびの普及で製糖業は戦後の黄金時代を築いた。

74年、奄美群島農業祭で農業振興功労賞、82年南海文化賞が贈られた。

「未来への道しるべ 薩摩藩奄美琉球侵攻400年記念事業」のご案内

日時：平成21年5月2日(土)午後1時開場/午後1時40分開演

場所：徳之島町文化会館

内容：アトラクション 舞遊会

基調講演 弓削 政己 氏(奄美郷土研究会)

シンポジウム 「未来への道しるべ 薩摩藩奄美琉球侵攻400年を再考する」

パネリスト：弓削政己、原口泉(鹿児島大学教授)、金城正篤(沖縄大学特任教授)、高良倉吉(琉球大学教授)、幸多勝弘(徳之島郷土研究会)、吉満庄司(徳之島高校教諭・シンポジウムコーディネーター)

交流会 ホテルニュー西田 午後6時～(3千円会費、申し込み期限4月20日まで)

【交流会申し込み及び問合せ先】

徳之島町役場企画課 82-1111(内線221) / 社会教育課 82-2904